

氏名 守 谷 節 夫

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 725 号

学位授与の日付 昭和50年12月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 リウマチ関節液の走査型電子顕微鏡による研究

論文審査委員 教授 田 中 早 苗 教授 砂 田 輝 武 教授 大 内 弘

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

関節リウマチ（RA）における局所関節の病態において、関節液細胞は重要な役割をはたすと考えられ、これまで形態学ばかりでなく、生化学的、免疫学的な研究も多い。

形態学的には関節液細胞、種々の細胞外成分は、光顕あるいは透過型電顕によって観察されてきた。しかし、これまでの研究はいずれも切片標本によるものであり、立体的に観察された報告はない。

著者は、走査型電子顕微鏡を使用して、リウマチ膝関節における関節液細胞および細胞外成分である線維様物質、顆粒物質、米粒体を立体的に観察し、その形態的特徴を検索した。

RA関節内遊離細胞は、その表面微細構造より3群に分類することが可能であり、各々は塗抹標本と比較して、多核白血球、リンパ球、食細胞に相当すると考えられる。また、個々の細胞についても、遊走あるいは貪食を思わせる動的形態変化が観察された。細胞外基質は、主として膠原線維と思われる線維様物質とフィブリン様物質よりなりたっており、細胞外顆粒物質には、その大きさと形より3種類のものが認められた。また、米粒体の表面観察では、脱落滑膜を思わせる表層細胞の突起を認めた。

これらの観察結果について、RA局所炎症の立場から、考察、検討を加えた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は慢性関節リウマチの局所関節液細胞および細胞外有形成分を走査電子顕微鏡で検査した研究であり、従来立体的観察はおこなわれていなかったこれらの部門について、多くの新知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。